

オープン市場短信 (2004年6月)

2004.6.4

5月のCP市場動向

5月のCP新規発行額は、3兆3千億円程度(ABCP・銀行CP除く)と前月に続き期落ち(約2兆5千億円)を大きく上回った。例年のことではあるが、5月末に法人税納付や夏季ボーナス支給などの季節的な資金需要が強まったことが増加の要因と言えよう。

5/27入札の月末スタート分は、発行企業数が60社を上回り、発行金額も8,000億円超となるなど久しぶりに大商いとなった。もっとも、発行レートは低位安定状態が続き、大幅発行増も全く影響しなかった。前月同様、ディーラーの積極的な引受ニーズと運用難に苦しむ投資家の旺盛な購入意欲がその支えとなっている。「官民逆転」レートがすっかり定着し、低位格付け銘柄(a-2格)でも0.01%台での発行が散見された。

銘柄別の発行レート

- 【最上位格付け銘柄】 0.004～0.007%台。
- 【オペ適格銘柄(a-1)】 0.007～0.01%台前半。
- 【オペ非適格銘柄(a-1)】 0.008%～0.02%台。
- 【ノンバンク・リース会社】 a-1+銘柄は0.003%～0.01%台後半。
a-1銘柄0.01%近辺～0.02%台後半。
- 【a-2格銘柄】 0.01%前半での出会いから0.10%台前半での発行が確認されている。

CP オペ

ABCP買切りオペは3回オファーされた。ここへきて、日銀適格担保となるABCPプログラムが増加したことから、毎回積極的な応札となった。5/24スタートのオペが、過去最高の応札額(1,720億円)となったため、5/31スタートのオペでは初めて入札予定額が1,000億円に引き上げられた(応札額は1,142億円)。

CP現先オペは、期日のロール分が4回実行された。4月末の大量発行を受けて、ディーラーのポジションが重くなっていたため、応札ニーズが強まり月初の落札レートは上昇した(平均落札レート0.005%)。しかし、その後は前月同様、回を追うに連れ低下し5/27スタート分の平均落札・足切レートは0.002%まで低下した。

5月末のABCP買切りオペ残高は2,605億円、CP現先オペ残高は2兆7,819億円(内ABCP7,797億円/短期社債1,945億円)。

現先市場

月中現先レートは、月間を通じて0.003～0.008%のレンジでの出会い。

ABCP

4月末の発行残高は、約6兆円と前月末残から大幅に減少した。減少の背景は、裏付けとなる資産の流動化ニーズが後退していることではないかと思われる。

先日終了した「証券化市場フォーラム」における議論と市場参加者からの要望を踏まえ、「証券化市場の動向調査」が開始され、その第一回の調査結果が5/31に公表されている。

る。「証券化商品のプログラムの設定状況 (ABCP)」は、3・9 月末毎の発表とされているが、現在国内で流通している ABCP のほとんどについて、その商品内容が把握できるようになっている。商品比較を行なう際には、便利な情報と考えられる。

6月のCP市場動向

6月中のCP償還は、前年同月比約3,700億円増の約3兆円(銀行・ABCPを除く)。5月中の新規発行が1ヶ月未満とごく短期のものが多かったことが影響しているとみられる。運用側のニーズの強さを背景として、発行企業が資金調達コストの低減のため期間の短縮化を図っている。調達金額も必要最小限にとどめているため、6月末残高は前年度比マイナスとなる可能性もあるだろう。

CP発行レートは、前月同様低位安定の状態が継続するだろう。

a-1格以上の銘柄では0.01%割れでの発行、低位格付け銘柄でも投資家の購入ニーズが強く、レートを切り下げて行く方向が強い。

CP オペ

ABCP買切りオペは、今月も複数回の実施が予想される。オペ対応玉の期日ロールがあるため、ディーラーの積極的な対応が見込まれる。

現先オペは、今月も4回の期日があるが、先月と変わらず落札レートは徐々に低下するものの、足切レートは0.002%までの低下に止まるだろう。

現先市場

月中現先レートは、T/N・S/Nともに0.003~0.007%の出会い、ターム物で0.005~0.008%近辺での出会いを予想する。

(松倉)